

城里町の文化財さんぽ(三七)

町指定文化財(彫刻)

木造聖観音菩薩立像

「木造聖観音菩薩立像」

指定年月日/平成一五年五月二日  
所在地/城里町大綱  
管理/所有者/個人

千手観音や十二面観音などさまざまな姿の観音像がある中で、私たちと同じ一面二臂の姿に造られたものを「聖(正)観音」と呼びます。

町指定文化財「木造聖観音菩薩立像」は、檜材・寄木造の聖観音像で、像高は一三八・五センチメートルです。頭部は髪を高髻に結び、精巧な銅板製の宝冠と冠綱(紐状)に下がる飾り、片方を欠失する(をつけています。眉間に白毫相を表す面部は、頬が引き締まり、玉眼(ガラス製の眼)が鋭く光っています。体部に



は条帛・天衣・裳を着し、両腕には釧(腕輪)を付けています。左手は左腹前で蓮華を持ち、右手は掌を前に向けて胸前に立てています。脚部はかるく膝を屈し、右足に重心をかけ、左足を僅かに踏み出して蓮華座上に立ちます。製作当初は漆箔仕上げで光り輝いていたはずですが、現在は素地となっています。

製作年代は、南北朝時代後半から室町時代初め(一四世紀末頃)にかけてで、頭部内面には「佛師平四郎三十七才二テ作」と作者名が墨書されています。

本像は、明治年間に千葉県の流山から迎えたものと伝承され、現在も三軒の森家によって朝日観音堂に祀られています。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一  
問合せ 教育委員会事務局  
☎029-288-3135

俳句

駒草に逢ひたく頂上目指しけり 鯉淵 寿美恵  
大判のスカーフ纏ひ風薫る 今瀬 多代美  
春耕の土生きてをり山青む 仲田 まちゑ  
琥珀色母の好みの春慶塗 森 静江  
一遇より水は田に入り風薫る 中野 千賀子  
薫風にちようちん袖のふくらめり 綿引 英子

文芸しろさと

短歌

スポーツの後の休息染しかり 給油するがの如く茶をのむ 杉山 みちこ  
道の辺にそつと咲き競ふす きれ花己の主張凜と語りる 大森 久子  
竹林に今堀り上げし箭のみづ みづといのちの重さ伝はる 渡辺 千紗子  
朝なきな茶水を供え香をた き先祖に今日の無事を祈る 所 美恵子  
初桜の満開見つつ我が心花 に包まれふんわりの夢 山形 式妙

川柳

川添ひの木々のかんざし藤の花 飯村 昭子  
紫陽花の持ち歩く傘太刀に似て 竹内 幸子  
退院す緑の風の中の試歩 瀬谷 博子  
春うらら新居の構え孫夫婦 岩下 金司  
山藤のおほふ重みに堪へるし 田口 勝元  
わが町に教会のあと釣鐘草 寺門 孝子  
川添ひの木々のかんざし藤の花 トランプの願え叶うか核廃棄 富田 多蔵  
親に似ぬ良い子は何処のDNA 車田 綾子  
田の中で俺をみつめる蛙ちゃん 飯村 孝一  
巢籠か庭のスズメも少し減り 川原 清  
ひとやすみ苦勞をいやすホロルの湯 栗林 一郎

ひと色に黄色あかるく咲く水 仙黄色の時間すぎて春逝く 枝 不美  
ふと見れば誰が植えたるや射干の 株籬の木の下にひそと咲きおり 島 愛子  
春の宵雨に濡れるる芍薬の 傘さしかけてと言ふが如くに 信田 育子  
梅こぼれ牡丹は崩れ桜舞う 花散るさまも豊かな個性 萩谷 登喜子  
白寿の母天に送りに見る花 は青空の色そぞろ身に沁む 富田 佐智子  
半世紀飼いた牛舎空になり 虚しさいっばい老の悲哀を 藺部 光子

